

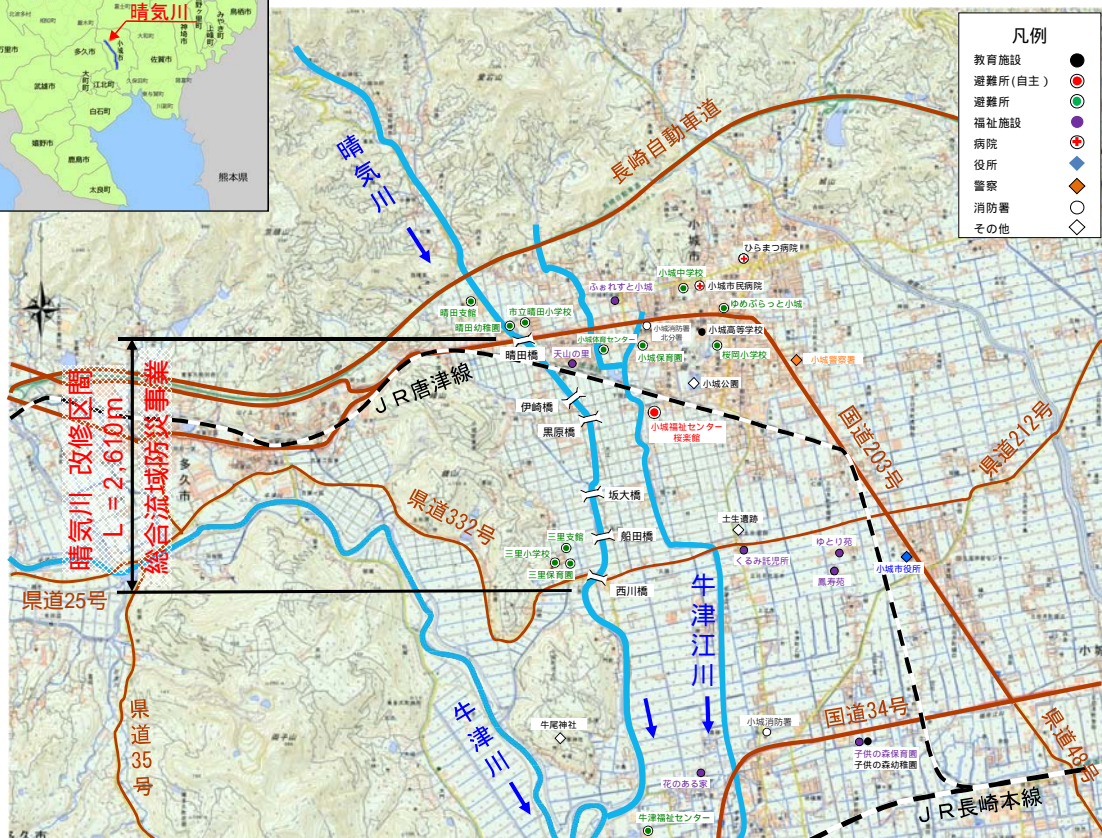
六角川水系晴気川 河川整備交付金事業 (総合流域防災事業)

小城市

(再評価実施後5年が経過)



位置図



事業目的

流下能力不足による浸水被害が発生

平成2年7月洪水

浸水戸数 1,393戸

浸水面積 624ha



○浸水被害の軽減を図る

・流路是正、狭窄部解消を実施

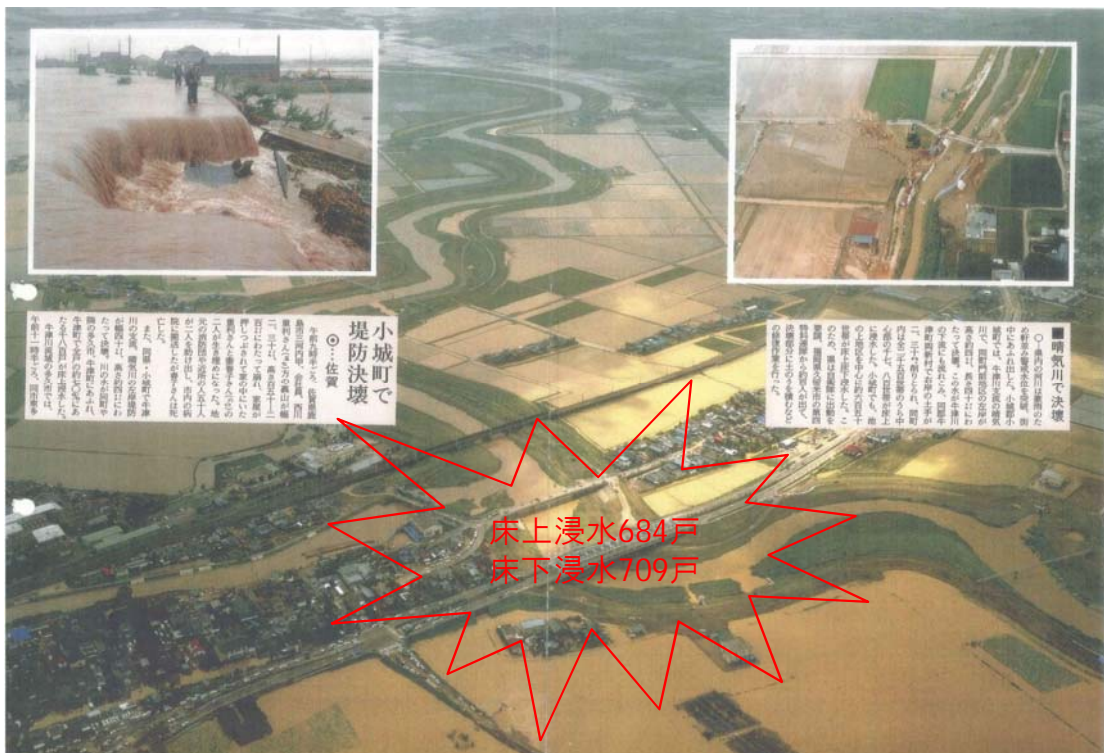
・治水安全度の向上を図る

計画流量 $100\text{m}^3/\text{s}$ ($180\text{m}^3/\text{s}$)

計画治水安全度 $1/2$ ($1/30$)

平成2年7月（梅雨前線豪雨） 晴気川

連続雨量366mm 最大日雨量303mm 時間最大雨量72mm



平成24年7月（梅雨前線豪雨） 晴気川



4k800(右岸)より下流を望む

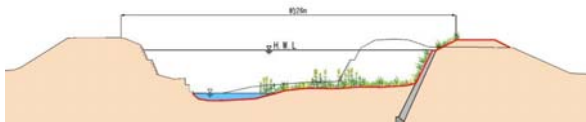


黒原橋より上流を望む

晴気川総合流域防災事業 着手年:平成15年度 事業地:小城市



標準横断面図



○事業概要

- ・全体事業費
2,881百万円
- ・事業期間
H15~H34
- ・改修延長
2,610m
- ・計画流量
100m³/s (180m³/s)
- ・計画治水安全度
1/2
- ・掘削・築堤・護岸、橋梁7橋
堰9基、樋管4基、サイフォン1基
- ・費用対効果
4.8

事業進捗状況



○事業進捗状況

- ・西川橋下流100mについては改修が完了、西川橋から船田第1堰までの1,285mについては暫定改修が完了している。
- ・H29年度末進捗率 90%(事業費ベース)
- ・年平均進捗率 6.0%

完了区間状況(下流部)



暫定完了区間状況



未完了区間状況(上流部)



多自然川づくりの状況

現況のブロック積護岸を取り壊し、土堤としたことで、水際の植生が活着し空間の連続性が創出されている。

坂大橋から上流を望む



着工前:ブロック積護岸(H18年)



H30年時点の状況
(晴気川左岸部護岸改修後)

事業を巡る社会情勢等の変化

○特になし

費用対効果の要因の変化

全体事業費の増によりCが増大しB/Cの減

総費用額C: 治水施設の整備及び維持管理に要する費用

(建設費、維持管理費(※事業完了後50年間))

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる総便益額(被害軽減額)

・一般資産被害(家屋、事業所等)	7,222百万円
・農作物被害(水稲、畑作物等)	352百万円
・公共土木施設等災害被害(道路、橋梁等)	12,234百万円
・間接被害(事業所の営業停止被害、清掃費用等)	555百万円
・残存価値	31百万円

総費用C: 20,394百万円

総便益B: 4,212百万円

⇒費用対効果

$$B/C = 20,394 / 4,212 = 4.8$$

コスト縮減や代替案等の可能性

- コスト縮減
 - ・再生材の積極的利用
 - ・建設副産物の有効利用
- 代替案の検討
特になし

対応方針(事業課案)

河川改修の効果

- ①治水安全度の向上
- ②平成2年7月洪水による
浸水被害 1,393戸
浸水面積 624ha の軽減
- ③地域住民の安全・安心な暮らしに寄与

今後の事業展開

- ・事業を継続し、早期完成を図りたい